

本書の使い方

愛知県は、東京について2番目に外国人が多い県です。(2020(令和2)年6月末現在)

本書は、当協会の相談窓口「あいち多文化共生センター」に寄せられた外国につながる子供たちの教育に関連する事例を挙げながら、愛知県に多く住む外国人の10の出身国、①ブラジル ②中国 ③ベトナム ④フィリピン ⑤韓国・朝鮮 ⑥ネパール ⑦ペルー ⑧インドネシア ⑨タイ ⑩アメリカ合衆国の教育事情等を紹介し、スムーズな相談対応を行う上で重要なポイントをまとめました。

教育についての相談は、手続きや制度の問題だけでなく、日本語能力、家庭環境、在留資格などの様々な問題に繋がっています。抱えている状況や想いは一人ひとり違うので、対応の仕方も一つではありません。本書に掲載していることがすべてではありませんし、絶対的な答えでもありません。

日本人にとって「あたりまえ」のことがやすぐに理解できることが、実は外国人にとってはあたりまえでなかったり、わかりにくかったりするなど、気づききっかけとして、相談員の方々に活用していただければ幸いです。

第1章 外国人相談に関する基礎知識

外国人とはだれを指すのか、在留資格とは何か、在留資格と他の様々な制度との関係、外国人の対応をするときにどんなことに気を付ければよいかなど、基礎的な情報をまとめました。外国人の対応をするときに不可欠なことばかりですので、是非活用してください。

第2章 学校・教育に関する制度

外国から日本の学校への入学や編入についての基本的な手続きの流れと、10か国の教育制度をまとめました。基本的な知識としてあらかじめ知っておくとよい内容ですが、ケースによってさらに細かい要素が加わってくる場合がありますし、制度はよく変わりますので、実際の相談の時には専門機関に必ず確認するようにしてください。

第3章 相談対応で知っておきたいポイント

本章では8つのテーマで、学校関係者や諸機関の相談員が参考になると思われる事例を記載しています。対応するときや受け入れる際に抑えておいた方がよいポイント、知っておいた方がよい外国人の背景などをまとめました。

「当然わかるだろう」と思うことが相手にはわからなかったり、「当然こうだろう」と思うことが実は違っていたりします。事例の相談はわかりやすくするため、シンプルにしていますが、いろいろな可能性を考えて、決め付けたり思い込みでせず、相談者とコミュニケーションをとるようにしてください。



対応のポイント:特に押さえておくべきポイントを挙げています。

コラム:さらに理解を深めるためのエピソードとして盛り込んでみました。日本との違いを楽しんでください。

第4章 関係機関一覧

外国人の子どもの教育にかかわる機関や教室、在日公館、多言語相談窓口や専門機関を掲載しています。問い合わせの際に活用してください。

第5章 各国の情報

本書で取り上げた10か国それぞれの国の情報を掲載しています。教育や文化、価値観などについて、相談の参考にしてください。

第6章 教育と外国人に関する資料

外国につながる子供たちの教育に関するキーワード、指差し対訳一覧、教育に役立つ資料、外国人に関するデータを記載しています。相談対応の参考にしてください。